unicef

ユニセフと地球の子どもたち㉕

http://www.unicef.or.jp

モンゴル
Mongolia

社会のしくみが大きくかわり 遊牧生活にも様々な問題

「スーホの白い馬」のお話で知られている国、モンゴル。日本ではモンゴル出身のお相撲さんも活躍しているよね。十五年ほど前、モンゴルは社会主義から資本主義へと、社会のしくみが大きくかわった。モンゴルの人たちの生活が自由になった半面、さまざまな問題が出てきているんだ。きびしい遊牧生活の中で、元気に育つ妹や弟のこと、夢に向かってがんばる気持ちをアディヤスレンさん（十一歳）が話してくれるよ。



遊牧をして生活する一家　©日本ユニセフ協会

わたしはモンゴルの南の方にあるゴビ地方の平原にくらしています。首都のウランバートルからはとても遠いところです。家族は、両親と兄、小さな妹と弟の六人。家畜を百頭くらい飼っている、ふつうの遊牧民の家族です。「ゲル」とよばれるモンゴルの伝統的な組み立て式の家に住んでいます。

社会のしくみがかわってから、高い収入がえられる仕事をもとめて、都会に行く人がふえています。遊牧の生活をしながら子どもを元気に育てることが、だんだんきびしくなっているからです。

きびしい環境、地域で育児支援 保育士が育て方や遊びを教える

家族とはなれ幼稚園を体験

わたしの住んでいる地域では、二年前から小さな子ども向けに新しい活動が始まりました。それは、ボランティアの保育士さんが家庭で楽しむいろいろな遊びを紹介することや、夏季幼稚園などです。

わたしの家には、ボランティアの保育士さんが定期的にきています。ユニセフの支援で、幼稚園の先生から訓練を受けた人たちです。おり紙やお絵かきなどの遊びや、子どもの発育を観察する方法をお母さんに教えて、それを妹と弟にやってみるようにつたえたりするのです。

妹と弟はお母さんにいろいろ教わり、家で楽しそうに遊んでいます。わたしは小さいころ、そんな遊びをしたことはありませんでした。

夏になると、約二週間の夏季幼稚園が開かれます。子どもたちがさまざまな体験をしたり、家で楽しむ遊びをおぎなったりするためです。参加する子どもたちは家族とはなれて、ほかの子どもといっしょに施設にねとまりします。

妹と弟は去年の夏、初めて夏季幼稚園に参加しました。色えんぴつで絵をかいたり、きれいな紙でおり紙をつくったり、歌ったりおどったりして、参加しているほかの十七人の子どもたちと楽しそうにすごしていました。

わたしの住んでいる平原では、ゲルとゲルがとてもはなれているので、近所同士のつき合いはほとんどできません。家族とばかりせっするので、子どもは人見知りになりがちなのですが、ふたりは夏季幼稚園に参加して、前よりも活発になったので、家の中が明るくなったような気がします。

先生になる夢めざして勉強

生活する環境がきびしい平原でも、子どもを元気に育てることができるなら、遊牧生活をつづけていけるのではないかと思います。わたしはここで家族とくらし、勉強して、夢に向かってがんばろうと思っています。将来は、平原でくらす子どものために、幼稚園の先生になるのが夢です。



人口100人あたりの電話の数

日本	☎☎☎☎☎☎☎☎☎☎	119台（ひとり1台以上）
モンゴル	☎☎	14台

「世界子供白書2005」から

子どもの権利条約

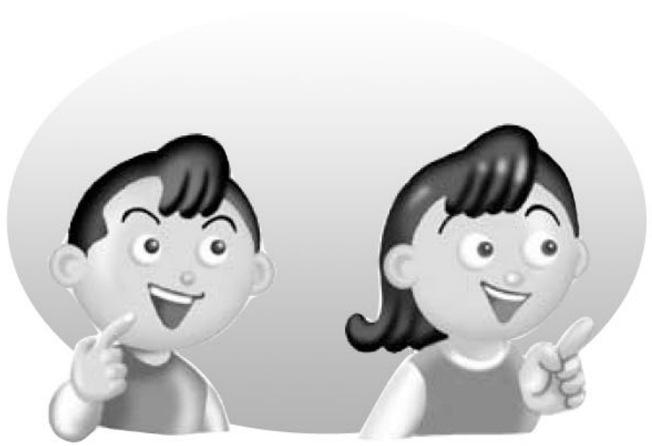
世界のすべての子どもは「権利」をもち、「子どもの権利条約」に守られています。

第二十七条【生活水準の確保】では、子どもは心や体のすこやかな成長に必要な生活をする権利をもっていて、親（保護者）は第一の責任者ですが、親の力だけで守れないときは国も協力する、としています。きびしい環境でのくらしでも、子どもは適切なケアを受けることで元気に育つことができます。子どもにとってよりよい生活になるように、家族と地域、国は協力しなければなりません。

もっと知りたい……

いつもん 将来ユニセフの職員になりたいのですが、どうしたらよいですか？

こたえ ユニセフは国連の機関なので、ユニセフの職員になるということは、国際公務員になるということです。実現のための道はひとつではありませんが、①英語（またはフランス語）で仕事ができること、②英語を身につけ、大学院で専門分野をしっかり学んで



職員になりたいのですが…

日本ユニセフ協会のホームページ（アドレスはhttp://www.unicef.or.jp）の「子どもの広場」で、くわしい説明を見てくださいね。

大学院（修士課程）修了程度の専門知識があることなどが条件とされています。

ユニセフには、子どもを守るために、保健、栄養、水と衛生、教育、保護のほか、広報活動や資材の調達、支援計画づくりなど、さまざまな仕事があります。関心がある分野を専門となるまで勉強することが大切です。

世界の国のことや国際関係を理解することも必要です。いろいろな人と協力して仕事をしたり、多様な文化を大切にしたりできるように、幅広い体験を積むことも役に立つでしょう。

ユニセフといっしょに

全国には、日本ユニセフ協会に協力するボランティアの人たちの集まりが二十六あります。岡山県で活動する「岡山県支部」が、ユニセフの学習に取り組んだ小学校を紹介してくれます。

岡山県倉敷市 赤崎小学校

募金活動で厳しい環境の子どもを知る

表会をして、文化のちがいを「ゆたかさ」ととらえることをめざしています。毎年冬に行うユニセフ募金を通して、子どもたちは初めて世界の子どものきびしい現状を知り、何かできないかと考えるようになります。

岡山県支部のユニセフ学習会に参加して、理解を深めた子どもたちは「少しでも多くの子どもたちが幸せになれるように協力していきたい」「もっと世界のことを勉強して、わたしたちにできることを考え、取り組みたい」と話しています。



世界の子どもたちのようすやユニセフについて学ぶ岡山県倉敷市赤崎小の子どもたち

掲載は一週おき。次は二十三日の予定です